



近森会グループ

びよっば

2

Vol.259

発行 ● 2008年1月25日

www.chikamori.com 高知市大川筋一丁目1-16 〒780-8522 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者●近森正幸/事務局●川添昇

4月1日から

高知ハビリテーリングセンター

※ハビリテーリングはスウェーデン語で「能力を獲得する」の意

新しい建物の完成予想図



近森リハビリテーション病院
地域リハビリテーション部

室長 上田 真弓



高知ハビリテーリングセンターの模型を前に開かれているハビリテーリングセンター準備委員会



として

高知ハビリテーリングセンターは、病院やクリニックでの機能回復訓練を終え、自分の目指す生活に向けて身体障害（建物完成後は精神、知的を加え

た三障害）を対象に自己管理し、体調を維持しながら生活訓練や就労訓練をするトレーニングセンターです。

そして、ここは通過施設として、利用開始から自分自身が決めた目標に向かって進んでいきます。

「ハビリテーリング」という言葉は日本ではまだまだ聞き慣れないかと思いますが、スウェーデン語で「能力を獲得する」というような意味があります。個人や家族の自立心が育っている国、スウェーデン語から取って、「高知ハビリテーリングセンター」と命名することに決まりました。

障害者になったことで本来の自分を失い、生きる希望までもなくしてしまうことは悲しいことです。障害の受容は簡単にできることではありませんが、それでも人の身体は生きるための無限の可能性を秘めているものです。まだまだ、障害者にとっては環境が作りだしている不利なことはありますが、それでも自らその状況に埋もれることなく、自分らしく生きるためのトレーニングをしていただきたいと思っています。

たとえ障害があっても他の人に人生を決められるのではなく、自分で決めた生活を送れるような、真のノーマライゼーションの実現をともに目指していきましょう。

ノーテンキ



近森 正幸

この正月は午前中に仕事を終え、久しぶりに散歩道を変えて堺町付近を通ったみたが、この辺りがずいぶん変わっているのに驚いた。老舗の中華料理屋は駐車場になっているし、銀行や証券会社も吸収や合併で名前が変わっていて、町が様変わりしているように思った。

服など、問屋を通して入ってきたものが、品質がよくて安いユニクロや玩具のトイザラスなどのグローバル企業が、商品を工場から直接店頭へ並べるようになり、地方の

商業を担ってきた、中間マージンを何重にも取るような業界は次第に淘汰されてきている。

現代は地元にとっては過酷な時代といえる。地元資本の商店は業種を問わず元気がなく、映画館なども町中の映画館はなくなり、大企業の快適な映画館に客を奪われている。

土木や医療は地方の大きな産業であったが、公共工事の減少で土木がだめになり、医療にしても診療報酬の抑制が続き、病院の施設への転換により売り上げは激減、雇用も減り、県に入るお金も減少し元気の出ない要素はきわめて多くなっている。

これまで県の収入は低い低いといわれているが、北海道や東北などに比べると、温暖な気候と豊かな食材をもつ高知は、それなりに、酒を飲んで楽しく暮らしてきた。そんなノーテンキな生き方が、今かろうじて高知を救っているように思う。

理事長・ちかもり まさゆき

前へ!

社会福祉法人ファミーユ高知
障害者福祉サービスセンター・ウエーブ 施設長

楠目 泰夫



高知市中心部で障害者の 自立を支援する拠点づくり

社会福祉法人ファミーユ高知は、2004年10月25日に認可設立をしました。その母体としては1996年10月1日に高知市布師田で開所した「共同作業所ウエーブ」で、2003年4月「第二ウエーブ」の開所を経て、8年間の法定外施設での歴史がありました。

2006年1月に近森正幸先生から「ファミーユ高知」理事長就任の内諾をいた

だき、同年4月1日に近森正幸理事長就任が実現できました。その後、旧春野町の「高知県立身体障害者リハビリテーションセンター」の民間移管への応募準備に入り、2007年3月に民間移管先に決定し、現在高知県と民間移管準備を進めており、4月1日より高知ハビリテーションセンターとしてオープンします。

一方、このたび「ウエーブ」を一カ所にまとめ、高知市中心部に障害者の自立を支援する拠点づくりのために、旧松田病院の建物内にオープンすることになりました。

ファミーユ高知としても「高知ハビリテーションセンター」、「ウエーブ」の二カ所を拠点として、また「近森会」のご指導ご協力を受けながら障害者の自立支援、地域生活支援事業を実施し成果を上げていかなければなりません。近森理事長の「社会福祉事業は公的な事業であり、高知県全体の障害者が真の自立と幸福生活を実現なくてはならない。ファミーユ高知はその使命がある」との考えを実現するため今後常に前進成長しながら、第一目標として障害者の経済的な自立支援を組織全体で努力していく所存です。前へ!

第47回
地域医療講演会

死因原因第一位の肺がんの検診

高知大学名誉教授 吉田祥二先生をお招きして、2008年1月11日(金)に、高知パレスホテルにおいて

放射線科部長 森田 賢まさる

講師にお招きした吉田祥二先生は高知医科大学設立と同時に放射線科助教授として赴任され、その後2代目教授となられましたが、赴任当時より胸部画像診断及び核医学の大家としてご高名であり、CTが大学に入ってから当時まだ評価の定まっていなかったCTの胸部画像診断への有用性の確立に積極的にご尽力されました。

教授退官の後にも検診業務を主体に、高知の医療と関わりを持ち続けられるとともに、当院でも研修医の教育や呼吸器カンファランスへの参加を通じて貴重なご意見やご助言をいただき、たいへんお世話になりました。

このたび、親御さんの介護のために高知を離れられることとなり、記念講演会の開催でお送りさせていただきたいと、この会を企画した次第です。

当日はあいにくの雨でしたが、立ち見の出るほどの盛況で、肺がんが悪性腫瘍のなかで急激に増えて、死因の第1位であり、見つかった時点で治療の困難な進行がんとなっていることが多く、助かる早期がんのうちに発見するには検診がいかに重要かを強調され、とくに定期的な検診の重要性とこれから広まるであろうCT検診への



期待を述べられました。

最後に、検診以前に何よりも禁煙の効果が大いことを強調されて講演を締めくくられました。

大変説得力のある、わかりやすいご講演で、一般の方にも十分に納得のいく講演会でしたが、今回から高知ケーブルTVのご協力により院内の講演会がTV放送されることとなりましたので、当日お聞き逃しの方はぜひご覧下さい。

◀講師を囲み、左から浜重直久近森病院副院長、森田賢放射線科部長、講師を務められた吉田祥二高知大学名誉教授、右端に近森正幸理事長



高知ケーブルテレビが取材に見えました



高知メディカルたいむのお知らせ

放送は初回が2月3日の日曜日午後8時からのご予定で、2月に全部で10回放送されるそうです。

お茶の間でメモを取りつつ、身近でためになる医療情報が学べます。皆さん、見逃せませんね!

エビデンスに基づいた 病院感染防止の新しい考え方

講師：東京医療保健大学大学院 感染制御学 教授 大久保 憲 先生

2008年1月12日に、コンフォートホテルで

近森会グループ 感染対策委員会 委員長 北村 龍彦



▶講師を囲み近森会グループ感染対策委員会(敬称略)、後列左から東野栄三看護師長(オペ室)、野口由美(健康管理センター)、山崎成美主任(オルソ5階)、氏原瞳(検査室)、川添精子(健康管理センター)、梶原麻世(健康管理センター)、青木操主任(透析室)、中島久美看護師長(第二分院3階病棟)、筒井由佳薬剤部長。前列左から矢野晶子(新館6西病棟)、近森幹子看護師長(新館4西病棟)、近森正幸理事長、講師の大久保憲教授、北村龍彦委員長(筆者)、糸林由加里(薬剤部)、増田千恵看護師長(リハ病院2病棟)

院外エッセイ

超美麗を探し求めて西へ東へ

高知県水先協会 会員 改田 修

超美麗種、生きた宝石「ニシキンカメムシ」

1944年4月高知市生まれ、窪川町育ち。19歳～55歳まで船員。最後の10年は外国航路船長としてペルシャ湾へのLPGタンカー(長さ230m、総トン数5万トン)の乗船が多かった



昆虫の、なかでもとりわけ蝶の写真撮りだしてから、かれこれ8年になる。例年、3月中旬から鏡ダム周辺でツマキチョウを、4月になればアゲハ、タテハ、シジミの類をカメラに収める。

5月になると筆山や春野運動公園に行き特別天然記念物であるミカドアゲハを撮影する。また同じ頃、少し足を延ばして梶ヶ森の山麓に行けばウスバシロチョウの優雅な滑翔を見ることができる。

6月中旬になると、川之江、伊予三島付近まで遠征すればオオミドリシジミと確実に出会える所がある。忙しく落ち着きのない蝶だが、さすがにゼフィルスの仲間、羽根を広げると表の青の輝きが美しい。弁当持ちで行けば、ここで一日中楽しむことができる。

7月、8月は、梶ヶ森山麓まで行ってオオムラサキ、ゴマダラチョウ、スミナガシなどを撮影する。また7月、鴻の森の頂上に行けばキアゲハが数多く飛び交う。高知市内では10月ぐらゐまで他のチョウも観察でき、1月でも民家などの常緑樹の葉をよ

く見ていると成虫で越冬するムラサキツバメに出くわす。(数匹、十数匹が葉の上で羽を寄せ合い寒さを凌いでいる情景は圧巻である！)

さて、写真の虫、これはニシキンカメムシとって、その名の通りカメムシの仲間である。昨年7月に撮影した。希少種、超美麗種で生きた宝石とも言われている。探し始めてから5年目にやっと出会えた。

昆虫の写真撮る時季は主として3月から10月頃までであるが、一年中楽しめる。というのも私は不意に備え小型のデジカメを常に携帯している。珍しい蝶や虫を見つけたときの嬉しさや胸の高鳴りは、気持ちを小中学時代に帰させてくれる。また後日、写真を見返すと、その時のことが思い出されて楽しい気分になり、ときめいてくる。

いま60の峠を少し越えたが、無理をしなければ次の日に残るような疲れもない。自然を満喫しながら野山を駆け回することは健康にも良いし、いい気分になれば精神の癒しにもなる。楽しみは脳の活性化にも繋がる。趣味、その数無限である。

講師の大久保教授は、日本環境感染学会の理事長をはじめ、数多く感染管理分野の学会の理事や評議員、そして厚生労働省や日本医療機能評価機構の委員、雑誌の編集委員などを兼任しておられます。

今回は「エビデンスに基づいた病院感染防止の新しい考え方」という演題で、近森会グループと外部の医療関係者あわせて178名のご参加をいただき、幅広いご経験と国内外のエビデンスに基づいた知見から、病院感染防止対策についての新しい考え方を非常に分かりやすくご講演いただきました。

講演内容は、

- ①行政の新しい動き、
- ②趣旨衛生、
- ③手術部位感染 (SSI) 防止、
- ④マスク・キャップ・帽子、

以上、大きく4つのテーマについて、エビデンスに基づいた内容をお示しください、最後にこれからの病院感染制御のポイントをまとめとして説明され、約1時間30分の講演があつという間に終了しました。

明快な内容であり、聴講者は病院感染防止について頭の中が整理され、明日からの臨床現場で活かされることであろうと思われました。

講演終了後は会場やフロアで多くの参加者が疑問点を講師に質問する姿が見られました。

高知県をはじめすべての医療施設で医療関連感染 (Healthcare associated infections:HAIs) に対する正しい知識と実践が求められており、近森会グループの感染対策の現場にも活かしていきたいと考えております。

恒例職員旅行

●恒例の職員旅行・全13コースも年が改まり、そろそろ佳境を迎えています。今号では、そのなかでオランダ・ベルギー篇と湯布院篇を報告します。



時雨れて冷たいアムステルダム之夜。が、雨にも風にも負けず町並みを活写した(畠中 Dr)



ベルギー北西部ゲントへも撮影のため足を伸ばす。シヨーウィンドーに足をとめる老人の姿は……(山本 Dr)



アムステルダム国立博物館前で全員集合。近森会写真倶楽部員の「刺激」で、ほとんど皆「まるで撮影旅行！」のノリでした

オランダ・ベルギー篇の写真が多いのをお許しください。なんせ写真倶楽部員(山本 Dr、畠中 Dr、太田垣 Ns)が『ひろっぱ』のために撮ったコマ数は合計3千枚超!!



路面電車と車と自転車の共存する街(畠中 Dr)

オランダの街の気さくな演奏家(太田垣 Ns)



いつもこんな感じ、フットワーク軽く何でも写写写! その山本 Drを撮るのは太田垣 Ns



このテの写真はほんの一部やきね(山本 Dr)

大分県の湯布院町で、石仏さまが笑ったようにも映る熊野磨崖仏を背景に全員で記念撮影



左端は美女に囲まれご満悦!の円山病理部長



白杵市で

聴診器

褥瘡担当看護師長

山下 佐和

インフルエンザの学び

久々に病気にかかってしまった、それもいま流行のインフルエンザ。

お正月を挟み十分リフレッシュしたはずなのに、出勤一日目からなんか身体の調子が悪い。二日目には病院での仕事大好き?なこの私が出勤したくない気持ちになっている。欠勤するにも37度台の微熱しか無いのだ。なんとなくお医者さんに診てもらいたくなり診察を受けたのだった。私は患者として病院にかかることが減多にないためか落ち着かない。仕事に、番が来たら呼んでもらうようお願いはしているものの、何時呼んでくれるのか?先生は誰だろうか?外来は忙しいのだろうか?熱が低いのに診察を受けていいのだろうか?などを巡らせ、結局呼ばれる前に外来に行ってしまった。

看護師さんやクラークさんの声かけがうれしく、診察をしてくれた先生も優しかった。先生の間診に緊張しき



ちゃんと答えたのか?分かってくれたのか?また不安でもあった。

検査をしてもらい、検査結果はインフルエンザ A(+), 幸い予防接種を受けていたので高熱が無く関節痛と倦怠感がメイン。制服の白衣だったが院外薬局でも優しく注意事項を説明された。

長年働いている病院だけど、患者になるとドキドキしてしまうんですね。初めて診察を受けられる患者さんはきっともっと戸惑うでしょうね。忙しくしているスタッフにはやっぱり遠慮してしまうんですね。

外来受診を久々に体験することで、診察にこられる皆さんの気持ちを改めて想像し、単純ですが私にできること、優しく話しかけていくことを続けていこうと感じた時間でした。

看護部 キラリと光る看護 その35

看護・看護からチーム・チームへ

看護部長 梶原和歌

長崎リハビリテーション病院の
開院に寄せて

看護職として自分たちの専門性を高めるための研修や努力は当然積まなければならないが、そろそろそのスタイルを見直したいものである。電子カルテで情報を共有するようになり多職種から学ぶことが本当に多くなった。

また、研修も看護部独自の企画よりもあらゆる職種参画型の医療安全セミナーやクリニカルパス大会で得るものが多い。高齢者が多くなり患者さんのニーズも多様になってきた今日、職種・部門ごとの専門的スキルを効果的に発揮するためにもチームアプローチが日々の業務運営の中でもっと見直され展開されるように、そのあり方を追求しなければならないと思う。

2月1日オープンする長崎リハビリテーション病院の竣工式に参加させていただき、建物を見、理事長栗原正紀先生の抱負をうかがって21世紀の病院組織論を学んだ思いがした。そこには縦割り組織からマトリックス組織(ラインや委員会)で縦横に織り成すも

の)を経て、「病院・患者家族・地域」の三者が団結融合して住み慣れた地域で幸せに暮らすための仕掛けが随所にちりばめられていた。

8カ月間研修に来られた70名の方々が近森会でチーム医療の一端を学んで下さったとすれば、そのルーツは岡田玲一郎先生の多職種混合学習形態の積み重ねと救急魂・リハ魂の実践からだろうと思う。

長崎リハビリテーション病院は「一人の患者さまに10名程度の担当スタッフ」という陣容で、医療と生活の安全を最も重視し、どこまで仲間を大切にできるかという取り組みに挑戦していくようだ。私たちも、そんな長崎スタッフに刺激を受けながら、高知は高知らしく、もっといえば近森らしい風土を忘れないでいい医療に徹してい



長崎リハビリテーション病院の正面玄関付近



職員旅行で訪れたスペインで07年12月(筆者近影)



心とむ屋上の花壇

▼日常生活を意識してさまざまな幅に造られた屋上庭園の階段



各フロアの食堂にあるパントリー(キッチン)。食事はここから直接出されるようになっている

たい。(栗原先生の『続・救急車とリハビリテーション』高知から長崎へ(荘道社)を、合わせお奨めします。



近森リハビリテーション病院

吉例 餅つき大会



暮れも押し詰まった昨年12月28日、当院の5階訓練室で恒例の餅つき大会を開催し、患者さんとご家族あわせて100人超のご参加をいただきました。

訓練に明け暮れる日々とは異なってこの日ばかりはいつもと違う表情で張り切って下さり、スタッフに支えられながらも器用に搗かれる方、上手に大福を作られる方など、私達の方が驚かされることしばしばの患者さんたちのようでした。できあがった餅はすぐにあがっていただき、皆で楽しいひと時を過ごしました。

来年への課題も見つかりましたが、運営にあたって下さった多くの職員や、四国管財の皆さんに感謝申し上げます。(近森リハビリテーション病院事務長 森山博行)



近森リハビリテーション病院は親しみのなかに、慶びが表現されている

テーマは飛躍

本年もまた HANAMIZUKI の浜川典利さんによる創作生け花で、近森会グループ四つの病院の玄関フロアがそれぞれに華やいだ。本年のテーマは「飛躍」で、各院各様の特徴が表現されている。立ち止まってまじまじ眺められる患者さ

- んもおられ、新しい年を迎えての期待感を感じていただけたようでもあった。
- 近森正幸理事長は、「古きよき時代の風習を大切にしたい、そういうことを大事に思う病院でもありたい」と、創作生け花の意義を語っている。

近森オールソリハ病院では新年の光をいっぱい受け一層存在感が増すようだった



近森病院玄関フロアが年末年始の約10日間、華やいだ



日曜市のおばあちゃん

近森リハビリテーション病院作業療法科 科長補佐 中島 美和

薬用酒アラカルト②⑥ 山椒酒



食欲増進にこの一杯。ピリリと辛口！山椒の実を使ったお酒をご紹介します。今回は、日曜市で見つけた材料を近森理事長自ら漬け込んで、提供していただきました。

<材料> (密閉容器 1L分)
山椒の果実(乾燥) …… 50g
グラニュー糖 …… 100g
ホワイトリカー …… 900ml

<作り方> ① 山椒の果実、ホワイトリカー、グラニュー糖を容器に入れ、漬け込む。② 6ヵ月程度おいて実を引き上げる。

山椒は香辛料として食用に利用されるほか、苦味チンキの製剤原料となり、胃腸薬に配合されたり、漢方薬としても処方されます。**食欲増進、消化促進、整腸、発汗、利尿など様々な作用**があります。約6ヵ月後、恒例の『ひろっぱ』編集委員による試飲会を行いました。瓶のふたを開けた瞬間から漂う、山椒のスパイシーな香りを楽しみながら、まずはロックで少量を試飲。グラニュー糖の甘さと山椒の香りがマッチし、意外にいけるんじゃない？と思ったその後、しびれるようななんとも言えない後味が舌中に広がりました。このしびれ感には山椒の成分であるサンショオール^①の知覚麻痺作用によるもので、西洋で山椒は歯痛を止める民間伝承薬としても用いられているそうです。編集委員からは「スパイシーで刺激的」、「電気ショックのような後味」という強烈な感想や、「食欲が出そう」、「こってりした料理に合いそう」、「土用の丑の日になぎと一緒にいただきたい」などの感想をいただきました。やはり山椒の成分が胃腸の運動を活発にするようです。

ストレート、ロックでは刺激が強いので、炭酸水やサイダーなどで割るとおいしく飲みやすくなります。さらにライムを搾ってさわやかにいただくのもよいでしょう。食欲のないときは食前酒としておすすめです。さらに寒さが厳しくなるこの時期、山椒酒で身体のなかから温かくなりませんか。

(文と画 薬剤部 嶋崎 ユリカ)

私の実家の祖母は、大正3年生まれの93歳です。実家は専業農家で、祖母は朝早くから日暮れまで畑仕事に精を出し、私が小さいころはよく背負って子守りをしてくれたそうです。

祖母は畑やビニールハウスでパンジーやバラなどを育て、毎週日曜市に出店し花を売ることが大好きで、お客さんに「ちょっとまけてや」と言われたら、「まけちゃおきねえ」と言って花をあげるようなお人好しでした。

年末にはシワシワの手で大きな角鉢に福寿草と松竹梅の寄せ植えを作るのが上手で、私はみごとに鉢を作り上げる過程をながめているのが大好きでした。

平成10年には脳内出血を患いましたが、両親は車椅子の祖母をポータブルトイレ持参で畑に連れて行き、介護を続けていました。その2年後に脳梗塞を発症し、嚥下障害により口から食

介護を要す寝たきりとなってしまいました。

そんな祖母が寝ているベッドの横のふすまには、日曜市の観光ポスターが張ってあり、日曜市の風景をバックに祖母は笑顔で微笑んでいます(つまりポスターのモデルが祖母なんです!)。ときどき私が実家に帰って「おばあちゃん」と声をかけると、「はい」と声が出ることもあって、孫の声は忘れてないなとうれしく思います。

介護はたいへんな日々ですが、仕事の合間に痰を吸引したり排泄や入浴の介護を続ける両親を私は尊敬しています。

今年、祖母は横になっていましたが、たくさんのひ孫らとお正月写真を撮りました(左上の写真)。来年もまた、祖母とたくさんのひ孫らとお正月写真を撮ることができるよう願っています。

『ほっとこうち』2月号付録 「読む薬箱」



「こんな時どうするの?」のQ&Aのコーナーで、救急部長の根岸正敏先生が「頭をぶつくと?」という内容で寄稿します。日常起こりがちなちょっとした疑問に丁寧に答えています。『ほっとこうち』(210頁・350円)買ってね♥

公開県民講座のお知らせ

みんな知っちゃう? リハビリテーション

2008年4月19日(土)
午後2時~4時
高知県民文化ホール(グリーン)

いまや「リハビリテーション」は挨拶代わり、「元気?」「これからリハビリ!」「明日はリハビリ」と、こんな遣われ方がされるほど日常の言葉になっています。が、皆さん、リハビリテーションを効果的に活かす極意、ご存知ですか? くわしいお知らせは次号に掲載します!

全ての時間を 仕事のために使える 有難さを実感

神戸学院大学で薬学を学び、卒業後はすぐ近森会に就職し、親元から自転車通勤の毎日を送る。

最近の変わったことといえば、「昨秋の近森オルソリハビリテーション病院の開院によりオルソの薬局勤務になったことぐらい」。極めて順風満帆、恵まれた生活である。ご本人にも大いにその自覚があるからハッピーこの上ない。

「今は仕事だけしていただいたいという甘えた状況です。諸先輩方は家事や育児があるので、仕事だけに集中できる私は有難いと実感しています」。この幸せな状況を自覚できるセンスが、一層毎日を楽しませてくれているようだ。

自宅へ帰ってからの自由な時間は「薬の勉強に費やす」のが「趣味といえば趣味…」という仕事熱心さで、薬の蘊蓄(うんちく)を詰め込めるだけ今のうちに詰め込んでおきたいのだそう。

例えば院内採用の催眠剤なら、その効用についてはいうまでもなく、作用の時間はどうか、どういう経過を辿るかとか、「暗記しておかなくても書類を見れば患者さんに説明できるようなことでも、とにかく何でも繰り返し読んで暗記するのが楽しい」と。そう説明する姿はホントに嬉しそうでワクワク

した感じに映るから、担当される患者さんの方も幸せをおすそ分けされる気分になるらしい。

さすがに土佐塾高校でしっかり勉強するクセがついているということだろうか、薬剤の知識を繰り返し学び、その学んだ内容をきちんと他に伝えるという本職を完璧にこなし、経験年数は少なくとも周りを納得させるだけの実績を積んでいるように見える。

優等生のもうひとつの顔はクラシックピアノの演奏をはじめ、キーボードだってこなす芸達者ぶりだが、家では「ボクのピアノは騒音の一種と嫌われますから…」と、照れ笑いがふんわり柔かい。

子どもの頃、心臓の弁の近くに小さな穴があることが分かり、17年前に手術を受け、今は年に一度の検診以外不自由はないが、そんな経験が医療を志すきっかけになった。

見た通りまじめ一徹で、成績も良かったわけだが、そこでドクターではなく薬剤師を目指したところが、いかにも中野さんらしい人生の分岐点だったのかも知れない。例えば、切る切らないを瞬時に決めて実行に移すイメージがあるドクターよりも、日頃から観察に

▼趣味は「薬の情報の暗記…、アツこれは趣味ではありません仕事ですねえ。で、趣味はあ〜……。アツ、バイクが好きです！」



▼休日は愛犬と遊び、気分転換。自宅玄関前で



努め物事の経過とじっくり取り組む姿勢が、自分にはいちばん合っている。そんなことを高校時代のピアノ演奏やクラブ活動のなかで感じてきたのが、今日の結果につながっている。

ひとり突っ走らず協調することの重要性も値打ちも、いま叩き込まれているという。こういう素直さやひた向きさが、患者さんには一緒に明るい方向を目指してくれる同志に映るに違いない。頼ればしっかり応えてくれそう!! そんな手応えが妙に嬉しい好青年だ。

わたしのこの一枚 画像診断部 久保 行広 がんばったご褒美

3年前の秋に徳島県のとある山上湖(ダム)に釣り仲間4人でバス釣りに行ったときの写真です。車で片道2時間以上、着いたダムは渇水のため減水。湖面にボートを浮かべるまでに道なき道をボートかについて1時間、平均年齢50歳に届きそうなおじさん達が(もちろん僕が一番年下です) 頑張って釣り上げたときの魚がこれ。まさにご褒美でした。いい魚でしょ。一口にバス釣りといっても、釣り方・楽しみ方はいろいろあります。僕も本格的にバス釣りを始めて20年近くになりますが、ここ何年かハマっているのがトップウォータープラグでのバスフィッシングです。トップウォーターは水面に浮くルアー(疑似餌)を使って、ネチネチちまちまトロトロ釣ります。ところが、これが釣れない。ほんとうに、釣れません。なんでそんな釣りを?と思われるでしょうが、水面下なら竿でアタリを感じ取らなければならないところ、トップウォーターならルアーが水面に浮くためにボコッと水面が盛り上がったあとルアーに魚が食らいつく瞬間が見えるのです。ええ年のおじさん達が、もうドキドキです。これがハマります。見えるがゆえに焦ってよくバラしますが……。



●チラシ制作は
柳井遊亀子さん(総務課)

2/14(木)
11:30~16:30
新館玄関前

献血
にご協力ください

※献血を飲んでいる、体調の悪い方は献血できませんので、健康に十分ご留意下さいまして一人でも多くの皆さんの貴重な血液をご提供下さいませようお願いいたします

主催:近森病院

雪割草

文 外科外来 浜渦 美紀



東北から中国、四国地方の低山地に見られます。早春に雪どけを待って可憐な花をつけるのが名前の由来だそうです。2種類あり、一つは高山に生えて雪どけ直後に開花するサクラソウ科、もう一つは比較的低山中丘陵の落葉樹の下で、3月から4月に開花するキンポウゲ科のもので。

花言葉は「はにかみ」「忍耐」「内緒」「優雅」。

私も2回目の成人式を先日終えました。いつまでもこの雪割草のように「外科のかわいらしい花」(と、このように周りの同僚が言ってくれるんです・笑)でいたいと思います。

2007年
12月の診療数

近森会グループ	
外来患者数	16,781人
新入院患者数	786人
退院患者数	853人
近森病院	
平均在院日数	14.35日
地域医療支援病院紹介率	94.23%
救急車搬入件数	521件
うち入院件数	274件
手術件数	366件
うち手術室実施	253件
うち全身麻酔件数	153件

企画情報室

○診療数のお断り。先月号の数字をお詫びして訂正します。手術件数は359件、うち手術室実施は246件。全身麻酔件数は143件ではなく153件でした。(編集室)

図書室便り

(2007年12月受入分)

- ・ HANDBOOK OF CLINICAL NEUROLOGY 3rd Series Vol.87 MALFORMATIONS OF THE NERVOUS SYSTEM / HARVEY B. SARNAT (他編集)
- ・ OPERATIVE CARDIAC SURGERY FIFTH EDITION / TIMOTHY J. GARDNER (他編集)
- ・ 最新整形外科学大系 22 末梢神経疾患 筋疾患 循環障害 / 三浪明男 (専門編集)
- ・ 地域連携パスの作成術・活用術 診療ネットワーク作りをめざして / 岡田晋吾 (編集)
- ・ 病院ファイナンス / 福永 肇
- ・ 医療従事者のための医療安全対策マニュアル / 日本医師会 (編集)
- 《別冊・増刊号》
- ・ 別冊 医学のあゆみ Alzheimer 病 基礎・臨床研究の最新動向 / 岩坪 威 (編集)
- ・ 日本医師会雑誌 136 巻特別号 (2) 腎・泌尿器疾患診療マニュアル—小児から成人まで / 五十嵐 隆 (他監修)
- ・ 別冊 NHK きょうの健康 糖尿病 自分のためにできること / 春日雅人 (総監修)
- ・ 細胞工学 別冊 目で見る実験ノートシリーズ 新版バイオ実験イラストレイテッド 3+ 本当にふえる PCR / 中山広樹・精神科治療学 22 巻増刊
- 精神科治療薬の副作用：予防・早期発見・治療ガイドライン / 「精神科治療学」編集委員会 (編集)

編集室通信

▼正月は天皇杯や高校サッカーなどサッカー好きにとっては1年のなかでも楽しい時期にあたる。とくに高校サッカーは流経大柏の強さが目立った大会といえる。ちょうど20年前私が通っていた武南高校も全国大会決勝まで勝ち進み、国立競技場で応援したことを今でも憶えている。今年はオリンピックもあり、サッカー好きにはたまらない年である。(潤)